

地域の中での役割

保護司 金山 修

初詣で、境内で偶然に出会った人同士の驚きの顔をしばしば見かけます。久しぶりの帰省で出会ったのかは解りませんが、その表情や会話に懐かしさや喜びが感じられます。又秋の祭礼では、コロナで行われずにいた「獅子舞神楽」が三年ぶりに実施され、獅子舞保存会のメンバーも見学の人々もなぜかいつも以上の気持ちの高ぶり、一体感が感じられました。三年の辛抱、努力が感情にあらわれた時でした。

二十年程前に保護司となり、色々な事情により誤って法を犯した方の更生を僅かではありますがお手伝いを致しております。対象者の中には高校生からかなりのご高齢の方までみえました。初めての面談では不安の様子が見てとれますので、まずその不安をなくすように、又次回からも安心して面談にこれるように努めます。気をつけていることは、対象者が将来に向けて前向きな気持ちが持てるように話し合い、励まし、そのうえで規則正しい生活と就労の大切さを感じてもらうことです。

就労は対象者にとり更生する大きな機会になります。就労をする中で地域社会の中での自分の位置が少しずつ感じられるようになり、毎日、毎月の積み重ねが自分自身の自信につながります。いろいろと波はあるものの家族や周りの方々の支えで乗り越えてほしいと願っております。就労の支援として「協力雇用主」の制度があり、伊賀市内には様々な業種、18の会社が加入、対象者の希望する会社があれば紹介することとなります。マッチングは限られておりますが、対象者の更生に理解をいただいている「協力雇用主」が地域にみえることは大変心強く感じております。

保護司会には3つの部会があり、その1つに「地域活動部会」があります。継続して行われている活動に市内の「中学校訪問」があります。校長先生、生徒指導担当教員とその学区の保護司が懇談し、生徒たちの様子や携帯などのトラブル、又地域との関わり状況などを話し合います。青少年が犯罪にまきこまれる前に防ぐことが望めます。若い世代ほど、家庭や学校の影響が大きく、又地域の支え、連携が必要に思われます。

20年前と比べ犯罪件数は大幅に減少し住みやすい社会になってきました。反面人々の悩みやストレスが複雑になり、見えにくくなってきたようにも思えます。青少年に限らずご高齢の方も同様です。少子化、福祉、経済など様々な対策が進められておりますが、身近なところでは、家族との関わり、地域との関わりを大切に、地域社会を少しでも明るくしていくことが望めます。地域の中で保護司会ならではの役割が果たしていければと願っています。

令和4年度保護司会活動（後期）

伊賀保護司会では、保護司の資質向上や知識拡充等を目指して、毎年、定例研修会、名張保護司会との交流会、更生保護施設訪問などを実施してきましたが、本年度も新型コロナウイルスの感染予防のため、いくつかの活動を中止または縮小して実施しました。その中から本年度実施できた活動について紹介します。



中学校訪問・中学校訪問報告会



依存症対象者についての研修会

更生保護活動とは、罪を犯した人の立ち直りを助け、再び罪を犯さないようにするための活動だけでなく、犯罪や非行を防ぐ活動を進めています。その一端を担うのが保護司です。そして、次のような組織の方々が活動を担っています。（法務省ホームページより）

更生保護女性会

更生保護女性会は、地域社会の犯罪・非行の未然防止のための啓発活動を行うとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生に協力することを目的とする女性のボランティア団体です。全国で約15万人おり、地域の公民館、学校等に地域住民の参集を求めて、その地域の実情に即した非行問題等を話し合うミニ集会のほか、親子ふれあい行事や子育て支援の活動などに取り組んでいます。

BBS会

BBS（Big Brothers and Sisters Movementの略）は、様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として接しながら、少年が自分自身で問題を解決したり、健全に成長していくのを支援するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体で、全国で約5,000人の会員が参加しています。近年では、児童福祉施設における学習支援活動や児童館における子どもとのふれあい行事等も実施しています。

協力雇用主

協力雇用主は、犯罪をした者等の自立及び社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした者等を雇用し、又は雇用しようとする民間の事業主の方々です。現在、全国で約25,000の協力雇用主が協力しています。犯罪や非行をした人の就労支援を一層推進していくためにも、協力雇用主を募集しています。